

第1章 基本計画策定の目的と位置付け

1-1 はじめに

■ 稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画策定の経緯

(1) 嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）の策定（H30.6 策定）

学校施設の整備を計画的かつ効率的に実施していくため、財政的、教育的及び地域的な視点から「子どもたちにとって最善の教育環境を確保するために嘉麻市としてどのような施設整備を行うことが望ましいのか」という点に主軸をおき検討を行った結果、嘉麻市の学校教育を更に発展させる基盤として、次世代に繋がる教育施設環境を整備するために、中学校区を基本校区とし、校区内の小学校と中学校を一体型校舎により整備することとした「嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）」を策定しました。

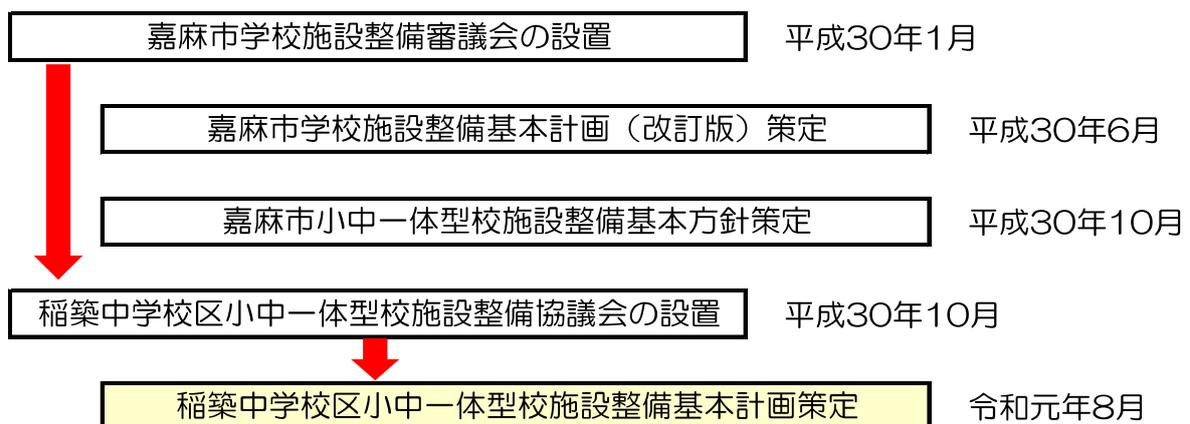
(2) 嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針の策定（H30.10 策定）

平成30年6月に改訂した「嘉麻市学校施設整備基本計画」（改訂版）に基づき、5つの中学校区の施設整備を公平・円滑に推進するための指針として、「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」を策定しました。

(3) 嘉麻市小中一体型校施設整備協議会の設置

嘉麻市小中一体型校の施設整備に向け、計画候補地や施設配置等に関する事項を協議するため、学識経験者や保護者代表、学校関係者等で構成された「稲築中学校区小中一体型校施設整備協議会」を平成30年10月に設置し、稲築中学校区の特色を生かした小中一体型校が設置できるよう協議を進めてきました。

「稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画」は以上の経緯により策定に至りました。

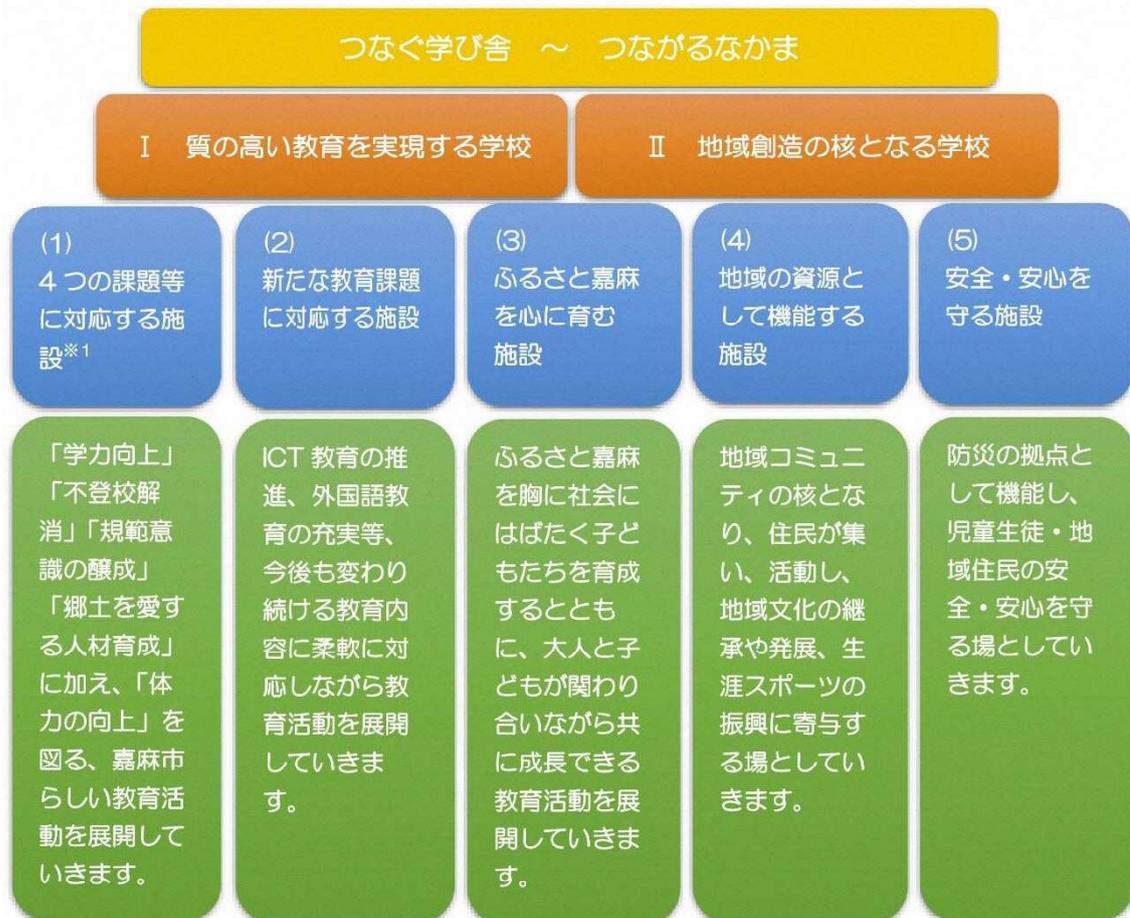


1-2 基本計画策定の目的

1-2-1 施設整備の基本方針

施設整備の基本方針を以下のとおり示します。

<施設整備の基本方針イメージ図>



※1：4つの課題とは、嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

1-2-2 基本計画策定の目的

稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画策定において、小中一体型校施設整備の指針となる「嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針」を踏まえ、稲築中学校区の特徴を生かした施設整備の具体化を図ることを本計画の目的とします。

第 1 章 基本計画策定の目的と位置付け

1-3 基本計画の進め方

1-3-1 施設の現状

施設の現状、学校活動の特色を十分に把握し、基本計画へ反映します。

- 稲築中学校区における学校の位置付け
- 学校敷地周辺の景観
- 児童生徒の通学路

1-3-2 学校施設計画の課題

本計画では、以下の計画課題について検討します。

- 計画候補地の検討
- 配置計画の検討
- 学校規模の検討
- 学童保育所の検討
- 図書室の検討
- 法的条件
- 構造計画・設備計画の検討
- 事業計画の検討

第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-1 市内の小中学校と他の公共施設

2-1-1 稲築中学校区の小中学校

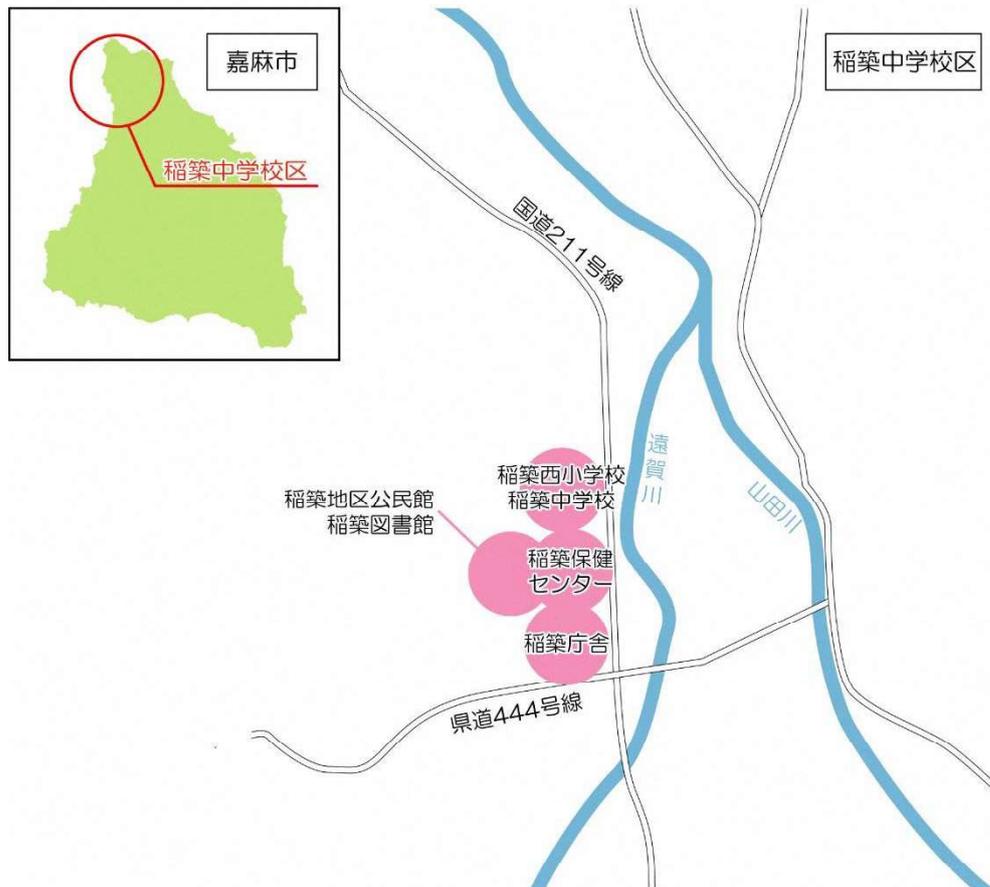
稲築中学校区は、稲築西小学校と稲築中学校の2校です。

校区	山田中学校区	稲築中学校区	稲築東中学校区	碓井中学校区	嘉穂中学校区
学校名	熊ヶ畑小学校	稲築西小学校	稲築東小学校	碓井小学校	嘉穂小学校
	上山田小学校	稲築中学校	稲築東中学校	碓井中学校	牛隈小学校
	下山田小学校				嘉穂中学校
	山田中学校				

2-1-2 稲築中学校区の公共施設

稲築西小学校・稲築中学校近隣には嘉麻市役所稲築庁舎をはじめ、地区公民館や保健センター等の公共施設が立地しています。

図 2-1-2-1 公共施設の分布



第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-2 稲築西小学校の現況

2-2-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築西小学校の校舎は、鉄筋コンクリート造2階建の建物が開放廊下によって結ばれた片廊下（一文字型）の平面形状です。特徴は特別教室棟の正面配置です。

体育館は南側配置、プールはグラウンドとレベル差の東側配置、グラウンドは稲築中学校と隣接する南側配置です。

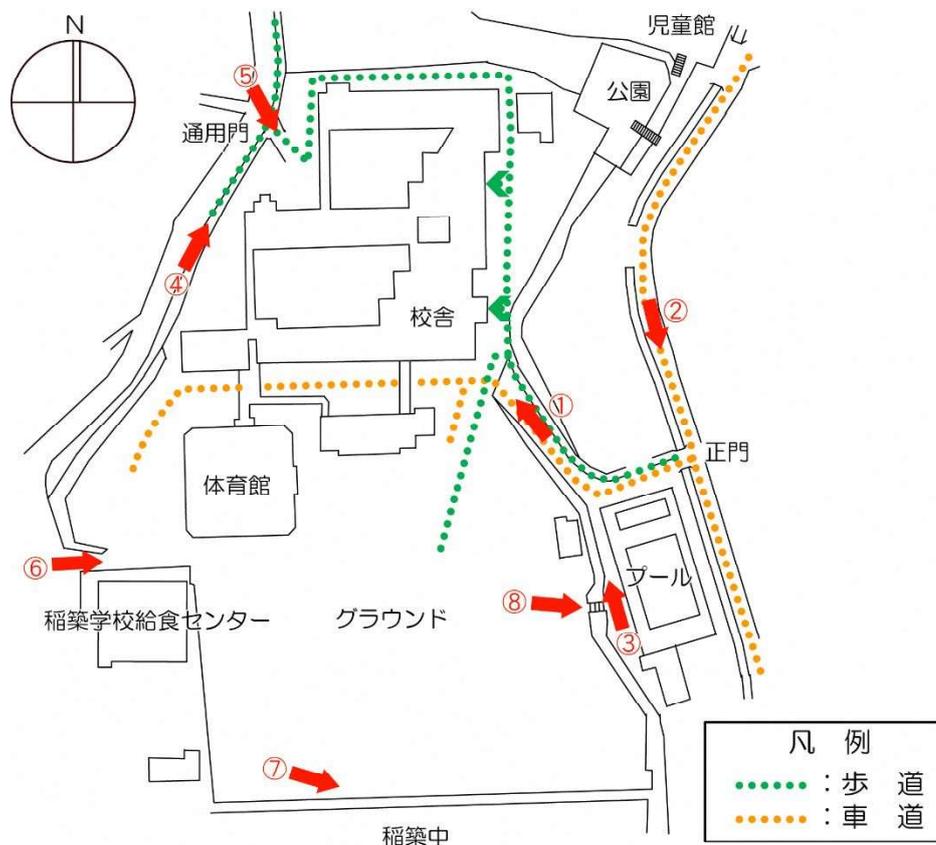
(2) アプローチ

敷地東側の正門から緩やかな登り傾斜のアプローチがあり、桜並木を通り抜け東側中央の明るい正面玄関と昇降口に導かれます。

(3) 学校まわりの現況

敷地東側敷地内通路とプール周辺は、高木(常緑)と石積囲障の明るい環境です。敷地南側は、グラウンドを境界に稲築中学校敷地と3m程度の高低差があります。敷地西側は、コンクリート擁壁とフェンスに囲まれています。敷地北側は住宅地に隣接し、通用門は登下校時のみ開放しています。

図 2-2-1-1 敷地の周辺環境





① 東側敷地内通路
正門にアプローチする
明るい入口



② 北東側通学路と水路
標識「30 速度制限」



③ 東側プールと擁壁
高木(常緑)の囲障



④ 西側コンクリート擁壁



⑤ 北側通用門
校舎に隣接する、
登下校時のみ開放



⑥ 西側敷地内通路、給食センター
擁壁駐車場にアプローチする
車両用入口



⑦ 稲築中学校との境界
3m 程度の高低差



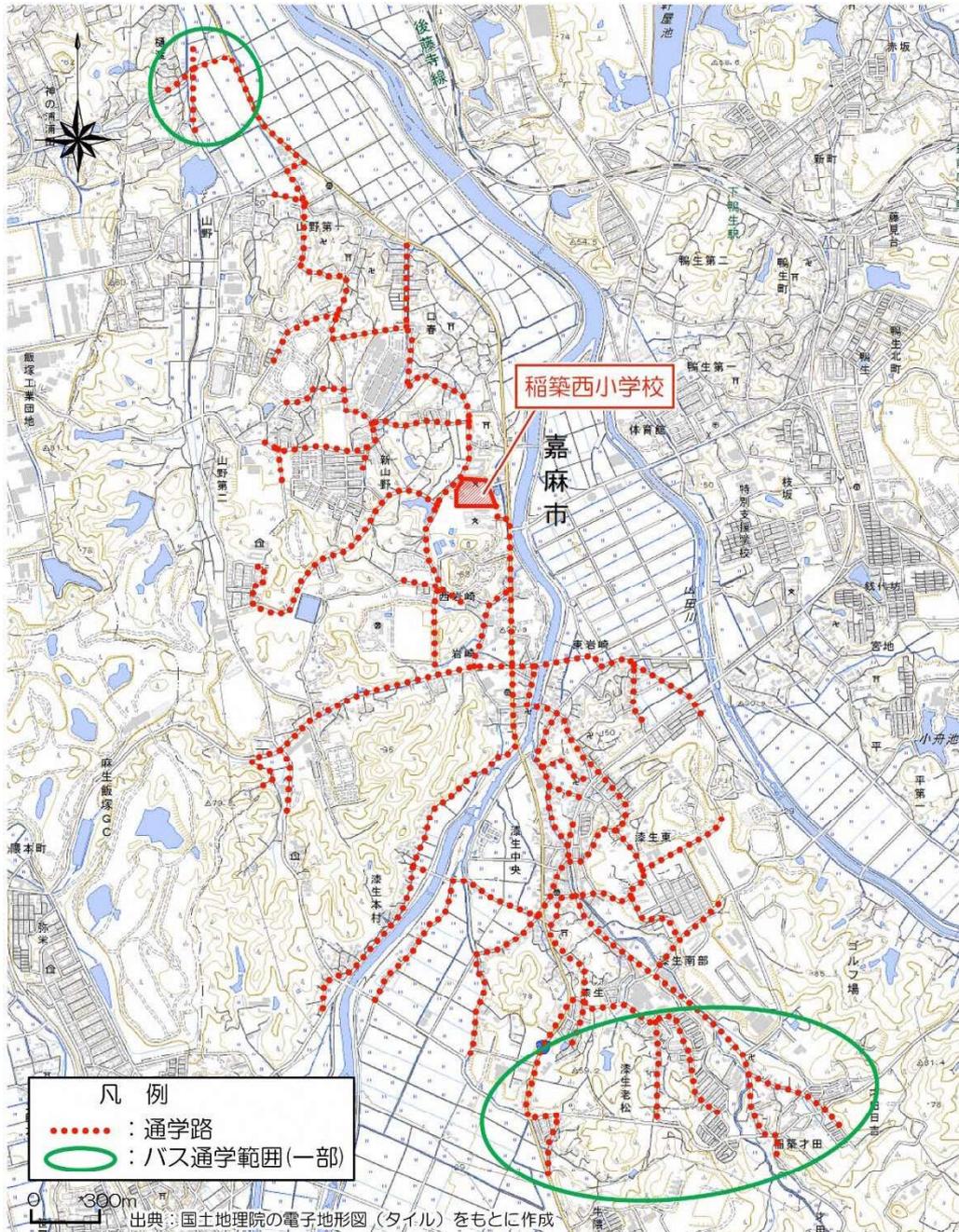
⑧ 南側角遊具スペースより
プールへの階段

第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-2-2 通学路

通学路は、多くが稲築西小学校の南北側に沿っており、自然豊かな河川敷と田園風景を通ります。また、校区の北部と南部の一部はバス通学区域となっています。児童の学校敷地への進入は東側正門と北側通用門となります。

図 2-2-2-1 通学路



2-2-3 稲築西小学校敷地

施設整備の計画候補地としての利点・課題・課題対応策を以下のとおり示します。

<p>利点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 敷地面積は約 28,000 m²です。 • 現学校敷地であるため、用地買収等の経済的負担もなく早期着工が可能です。 • 通学路の変更はありません。 • 高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。 • 子どもたちにとって親しみのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減されます。 • 校区のほぼ中心に位置しています。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • グラウンドに校舎を建設する場合は、整備期間中のグラウンド利用が出来ないため、代替地の検討が必要です。 • 現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要です。 • 建設時に児童の安全面や教育活動への影響が懸念されます。
<p>課題対応策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 隣接する稲築中学校グラウンドを一時的なグラウンドとして活用を検討します。 • 安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を検討します。

第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-3 稲築中学校の現状

2-3-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築中学校の校舎は、鉄筋コンクリート造3階建の建物が開放廊下によって結ばれた、片廊下（一文字型）の平面形状です。

体育館は中央配置、武道場は東側配置、プールは西側配置です。グラウンドは西側配置です。

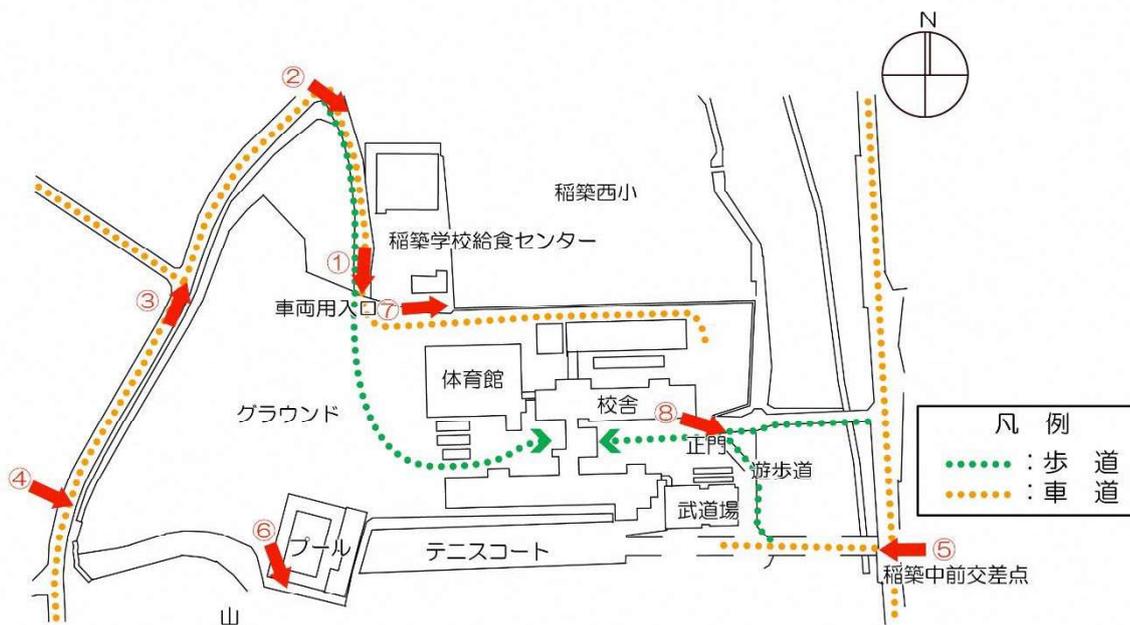
(2) アプローチ

敷地東側の稲築中前交差点から緩やかな登り傾斜の広いアプローチがあり、遊歩道を通り抜け東側中央の正面玄関と昇降口に導かれます。

(3) 学校まわりの現状

敷地南側は、稲築公園や稲築プール（廃止済）が隣接し、学校プールには間知石積擁壁が隣接しています。東側正門からのアプローチは隣地住宅地が連続し、敷地北側は稲築西小学校グラウンドに隣接しており、3m程度の高低差があります。

図 2-3-1-1 敷地の周辺環境





① 北側敷地内通路
学校給食センター、グラウンドに
アプローチする車両用入口



② 北西側道路より車両用入口
稲築西小学校が見える



③ 西側擁壁と防球ネット
雑草管理しにくい高さ



④ 南西側角擁壁、高低差 1m
程度入口を新設可能な高さ



⑤ 稲築中前交差点より
武道場へのアプローチ、
通学路より正門へ続く



⑥ 南側プールに隣接する
間知石積擁壁



⑦ 稲築西小学校との境界
3m 程度の高低差



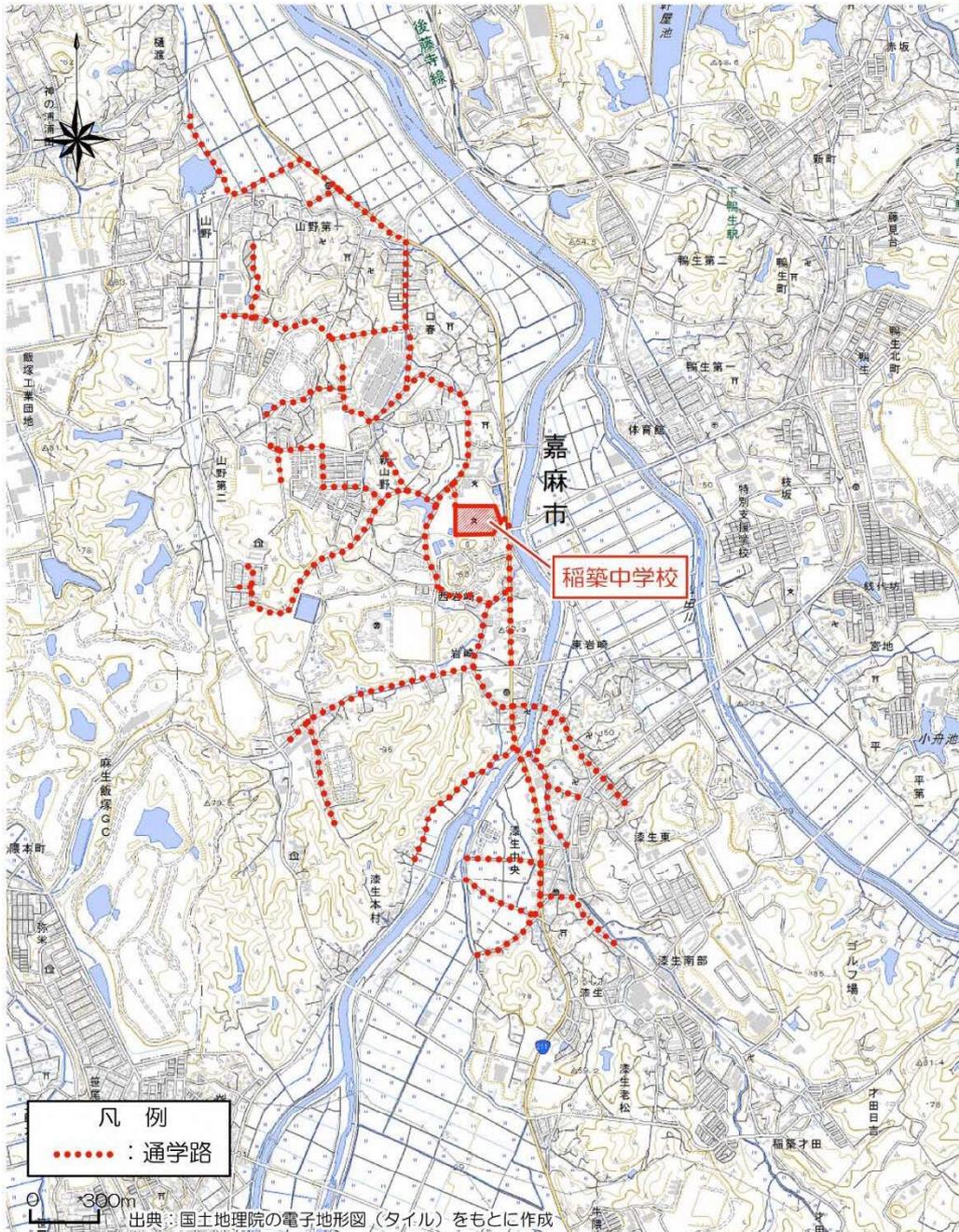
⑧ 東側正門と高木(常緑)
稲築中前交差点より
敷地内通路隣接

第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-3-2 通学路

通学路は多くが稲築中学校の南北側に沿っており、自然豊かな河川敷と田園風景を通ります。生徒の学校敷地への進入は、稲築中前交差点を經由し、東側正門と北側車両用入口となります。

図 2-3-2-1 通学路



2-3-3 稲築中学校敷地

施設整備の計画候補地としての利点・課題・課題対応策を以下のとおり示します。

<p>利点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積は約 30,000 m²です。 ・現学校敷地であるため、用地買収等の経済的負担もなく早期着工が可能です。 ・通学路の変更はありません。 ・高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。 ・子どもたちにとって親しみのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減されます。 ・校区のほぼ中心に位置しています。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドに校舎を建設する場合は、整備期間中のグラウンド利用が出来ないため、代替地の検討が必要です。 ・現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要です。 ・建設時に生徒の安全面や教育活動への影響が懸念されます。
<p>課題対応策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する稲築西小学校グラウンドを一時的なグラウンドとして活用を検討します。 ・安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を検討します。

第2章 計画候補地の現況及び課題整理

2-4 計画候補地の検討

2-4-1 稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の比較検討

稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地について、以下3項目の比較を示します。

表 2-4-1-1 稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の比較

比較項目	稲築西小学校敷地	稲築中学校敷地	稲築西小学校敷地 + 稲築中学校敷地
敷地面積	約28,000㎡	約30,000㎡	約58,000㎡
安全性	○ 高台に位置し、 防災拠点としての 機能を有しています。	○ 高台に位置し、 防災拠点としての 機能を有しています。	○ 高台に位置し、 防災拠点としての 機能を有しています。
計画候補地 としての適性	△ 敷地面積が狭小です。	△ 敷地面積が狭小です。	○ 両敷地を一体的に活用す ることで、敷地面積を満 たします。

2-5 計画候補地の決定

稲築西小学校敷地及び稲築中学校敷地は、安全性、通学路等については、両敷地とも計画候補地としての要件を満たしています。

敷地面積については、それぞれの面積では小中一体型校の校舎やグラウンド等を配置するには狭小ですが、隣接している両敷地を一体的に活用することにより計画候補地としての要件を満たします。

稲築中学校区の計画候補地については、敷地面積や安全性等の観点から、稲築西小学校敷地及び稲築中学校敷地の両敷地を計画候補地とします。

第3章 配置計画

3-1 配置計画の検討

計画候補地内での配置計画について、中央配置案、西側配置案、東側配置案の3つの案の比較を示します。

図 3-1-1 中央配置案



図 3-1-2 西側配置案



図 3-1-3 東側配置案



表 3-1-1 稲築中学校区敷地内での配置計画案比較表

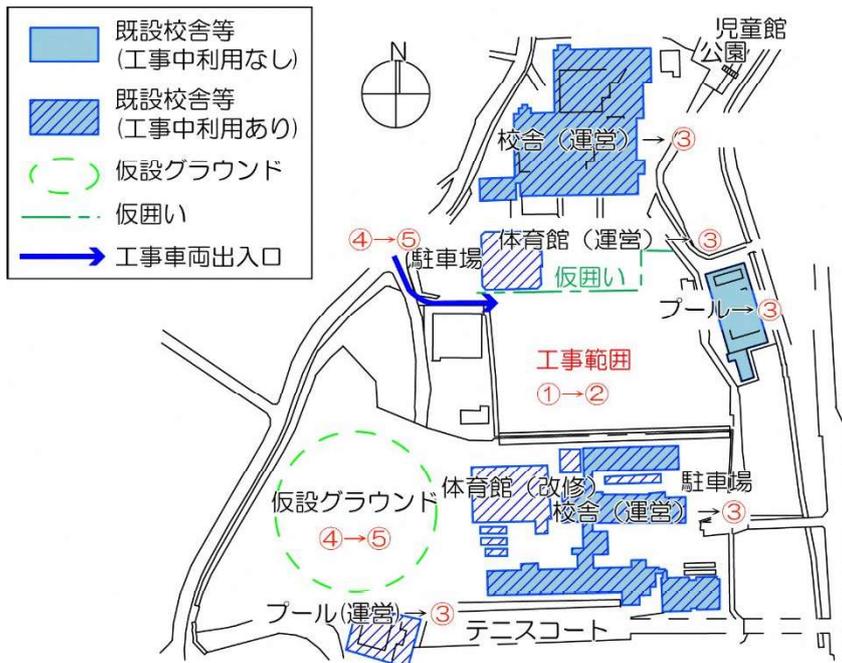
項目	中央配置案		西側配置案		東側配置案	
新校舎の配置	・稲築西小学校の 現グラウンドに建設	/	・稲築中学校の 現グラウンドに建設	/	・稲築中学校の 既存校舎敷地に建設	
学校周辺地域 への影響	・周辺地域への影響は少ない	○	・周辺地域への影響は少ない	○	・東側住宅地側に新校舎近接 のため日影影響有り	△
幹線道路との接続	・来校者は稲築中前交差点 より接続 ・教職員は現小学校正門及び 西側道路より接続	○	・来校者は稲築中前交差点 より接続 ・教職員は現小学校正門及び 西側道路より接続	○	・来校者は稲築中前交差点 より接続 ・教職員は現小学校正門及び 西側道路より接続	○
歩車分離動線	・歩車動線は分離	○	・歩車動線は分離	○	・歩車動線は分離	○
グラウンドの 広さ、配置	・200mトラック、野球場、 サッカー場の適正広さ確保	○	・200mトラック、野球場、 サッカー場の適正広さ確保 ・防球ネット必要	△	・200mトラック、野球場、 サッカー場の適正広さ確保 ・防球ネット必要	△
仮設校舎使用の 有無	・仮設校舎使用 無	○	・仮設校舎使用 無	○	・仮設校舎使用 有 (中学校用の仮設校舎)	△
地域に開かれた学校 (地域開放性)	・体育館と地域交流ゾーンが近接 ・学校と地域交流ゾーンの 区分が明確 ・来校者動線を限定し 全体把握が可能です	○	・体育館と地域交流ゾーンが近接 ・学校と地域交流ゾーンの 区分が明確 ・来校者動線を限定し 全体把握が難しいです	△	・体育館と地域交流ゾーンが近接 ・学校と地域交流ゾーンの 区分が明確でない ・来校者動線を限定し 全体把握が難しいです	△

第3章 配置計画

3-2 移行計画の検討

計画候補地内での移行計画について、中央配置案、西側配置案、東側配置案の3つの案の比較を示します。

図 3-2-1 中央配置案



工期	1年間	2年間	3年間	4年間
	約1.5か年		※新校舎へ引越し	
既存校舎解体			③	
新校舎等建設	①	②		
グラウンド整備			④	
体育館改修				⑤
武道場建設 (サブアリーナ)				
凡例	①改築工事着工 ②新校舎へ引越し		③解体工事着工 ④グラウンド造成着工	
				⑤竣工引渡し

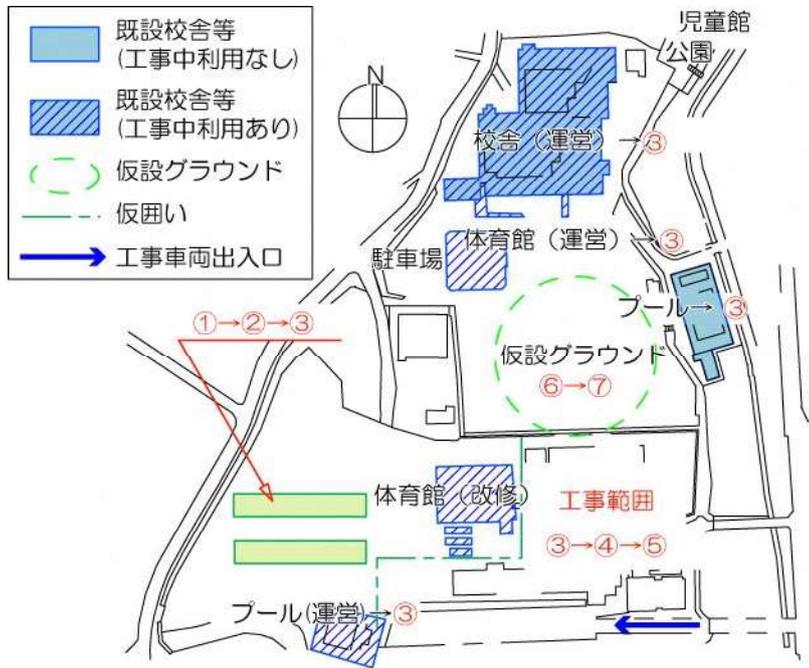
図 3-2-2 西側配置案



工 期	1年間	2年間	3年間	4年間
	約1.5か年		※新校舎へ引越し	
既存校舎解体		③		
新校舎等建設	①	②		
グラウンド整備			④	
体育館改修				⑤
武道場建設 (サブアリーナ)			④	
凡 例	①改築工事着工 ②新校舎へ引越し		③解体工事着工 ④グラウンド造成着工 ⑤竣工引渡し	

第3章 配置計画

図 3-2-3 東側配置案



工 期	1年間	2年間	3年間	4年間
	約2.5か年			※新校舎へ引越し
仮設校舎建設	① ②	運 営		
既存校舎解体		③		
新校舎等建設		④	⑤	
グラウンド整備				⑥
体育館改修				⑦
武道場建設 (サブアリーナ)				
凡 例	①仮設校舎着工 ②仮設へ引越し ③解体工事着工		④改築工事着工 ⑤新校舎引越し ⑥グラウンド造成着工 ⑦竣工引渡し	

表 3-2-1 稲築中学校区の移行計画比較表

項目	中央配置案		西側配置案		東側配置案	
工事期間中の安全確保	・工事車両と歩車動線は分離	○	・工事車両と歩車動線は分離	○	・工事車両と歩車動線は分離	○
工期 (着工から新校舎へ引越し)	・約1.5か年	○	・約1.5か年	○	・約2.5か年	△
工事期間中児童生徒への影響	・工事範囲と分離のため騒音があるが影響は少ない	○	・工事範囲と分離のため騒音があるが影響は少ない	○	・仮設校舎利用時の動線、環境の変化が有り、影響は大きい	△
工事期間中グラウンド利用への影響	・仮設グラウンド(中学校側)有 ・小学生移動利用有(歩車動線は分離)	○	・仮設グラウンド(小学校側)有 ・中学生移動利用有(歩車動線は分離)	○	・仮設グラウンド(小学校側)有 ・中学生移動利用有(歩車動線は分離)	○
工事期間中体育館利用への影響	・既設小中学校体育館の利用可能	○	・既設小中学校体育館の利用可能	○	・既設小中学校体育館の利用可能	○
工事期間中プール利用への影響	・既設中学校プールの利用可能	○	・既設中学校プールの利用可能	○	・既設中学校プールの利用可能	○
工事期間中給食関係車両の動線	・工事期間中同じ動線 変更無	○	・工事期間中同じ動線 変更無	○	・工事期間中は中学校搬出入動線の変更は有るが影響は少ない	○
工事期間中地域に開かれた学校(地域開放性)	・既設小中学校体育館の利用可能 ・現小学校グラウンドの利用不可能	△	・既設小中学校体育館の利用可能 ・現中学校グラウンドの利用不可能	△	・既設小中学校体育館の利用可能 ・現中学校グラウンドの利用不可能	△
配置計画の適正	◎		○		△	

3-3 配置計画の決定

中央配置案は、稲築西小学校のグラウンドでの新校舎整備となるため、工事範囲を校舎側と運動場側で分離することが可能です。また、仮設校舎整備の必要がないため、東側配置案に比べ、工期が短期間になります。地域開放性については、外部から利用しやすい位置に、地域コミュニティの拠点として、児童生徒と地域住民が交流を図れるゾーン（以下「地域交流ゾーン」という。）を集約しているため、学校と地域交流ゾーンの区分けが明確となります。不審者対策及び安全対策については、学校への進入動線が限定されるため、来校者の把握が可能です。

西側配置案は、稲築中学校のグラウンドでの新校舎整備となるため、工事範囲を校舎側と運動場側で分離することが可能です。また、仮設校舎整備の必要がないため、東側配置案に比べ、工期が短期間になります。地域開放性については、外部から利用しやすい位置に地域交流ゾーンを集約しているため学校と地域交流ゾーンの区分けが明確となります。不審者対策及び安全対策については、学校への進入動線は限定されますが、新校舎からの死角が発生するため、来校者の把握は困難です。

東側配置案は、稲築中学校の現校舎側での新校舎整備となるため、仮設校舎の必要が生じます。現校舎を解体し、新校舎を整備していくこととなり、生徒には仮設校舎移転に伴う環境変化による影響が懸念されます。工期については、仮設校舎整備の必要があるため、他の2案に比べ長期間になります。また、敷地東側の住宅地に新校舎が近接することになり、学校周辺地域への影響も懸念されます。地域開放性については、学校と地域交流ゾーンの区分けが不明確となります。不審者対策及び安全対策については、学校への進入動線が限定されるため、来校者の把握は可能です。

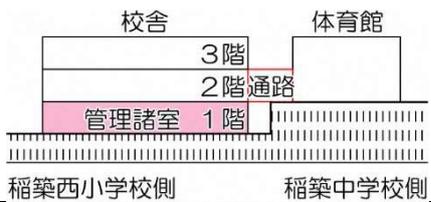
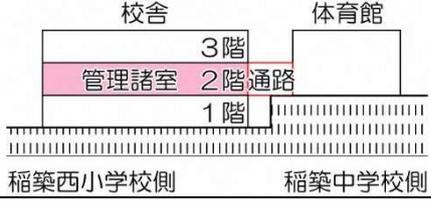
共通事項として、稲築中学校の体育館は、著しい老朽化も見られないため、改修により対応します。また、稲築中学校の体育館のみでは面数不足が生じるため、武道場兼サブアリーナの整備についても検討します。

稲築中学校区の配置計画については、仮設校舎建設による財政面の負担や児童生徒の学校生活への影響、不審者対策及び安全対策等の観点から、新校舎を稲築西小学校のグラウンドに整備する中央配置案とします。

3-4 稲築中学校区の管理諸室位置比較

管理諸室位置について、1階配置案と2階配置案の比較を以下のとおり示します。

表 3-4-1 管理諸室位置比較表

1階配置案	
	
利点	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年と同一階です。 接地しています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドと体育館及び地域交流ゾーンを含め敷地全体の見渡しが困難です。 来校者の管理が困難です。 事務室は、校長室、職員室、外来者用玄関、受付等との連絡のよい位置に計画することが重要です。 ※文部科学省「小学校施設整備指針」、文部科学省「中学校施設整備指針」より
課題対応策	<ul style="list-style-type: none"> 学校敷地内の動線（児童、生徒、来校者）を明確にします。 防犯カメラ等を設置します。 事務室等を2階に設置します。
2階配置案	
	
利点	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドと体育館及び地域交流ゾーンを含め敷地全体の見渡しが良いです。 体育館への移動に便利です。 来校者の管理がしやすくなります。 校舎の中央階に配置します。（小学校低学年の視認性高い位置に配置可能） 職員室は、屋外運動場、アプローチ部分などの見通しがよく、校内各所への移動に便利な位置に計画することが重要です。 ※文部科学省「小学校施設整備指針」、文部科学省「中学校施設整備指針」より
課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年と同一階ではありません。
課題対応策	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の視認性が高い位置に配置します。 学校敷地内の動線（児童、生徒、来校者）を明確にします。 学校敷地内を見渡せる為、来校者動線を外れた人を発見しやすくなります。 職員室から直接1階へ行ける動線を確保します。 防犯カメラ等を設置します。

第4章 学校規模・平面計画

4-1 学校規模の検討

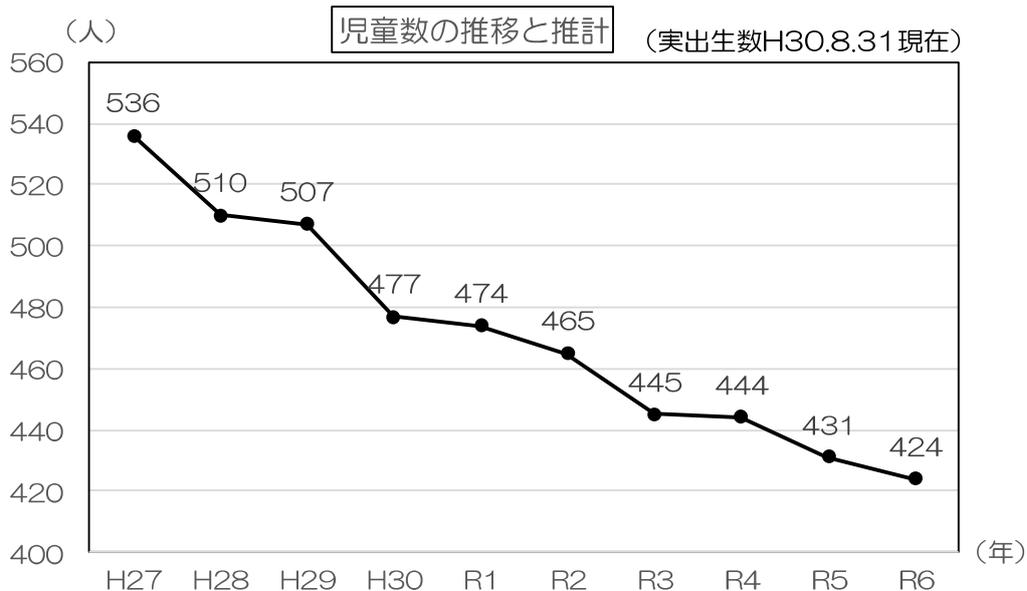
4-1-1 学校規模

(1) 稲築西小学校

平成30年度現在18学級で、今後も増加の見込みはなく、各学年3学級で推移する予測です。(30人以下学級で算出)

表 4-1-1-1 稲築西小学校児童数の推移と推計

平成25年度 ～ 平成30年度		平成25年度 児童数	平成26年度 児童数	平成27年度 児童数	平成28年度 児童数	平成29年度 児童数	平成30年度 学級数 児童数						
稲築西小	1年			91	71	82	3	73					
	2年			80	91	72	3	81					
	3年			73	85	91	3	71					
	4年			99	79	85	3	90					
	5年			87	98	79	3	83					
	6年			106	86	98	3	79					
	合計	549	535	536	510	507	—	477					
教職員数	44	44	44	47	49	—	52						
令和元年度 ～ 令和6年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
稲築西小	1年	3	76	3	74	3	70	3	70	3	68	3	66
	2年	3	73	3	76	3	74	3	70	3	70	3	68
	3年	3	81	3	73	3	76	3	74	3	70	3	70
	4年	3	71	3	81	3	73	3	76	3	74	3	70
	5年	3	90	3	71	3	81	3	73	3	76	3	74
	6年	3	83	3	90	3	71	3	81	3	73	3	76
	合計	—	474	—	465	—	445	—	444	—	431	—	424
教職員数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

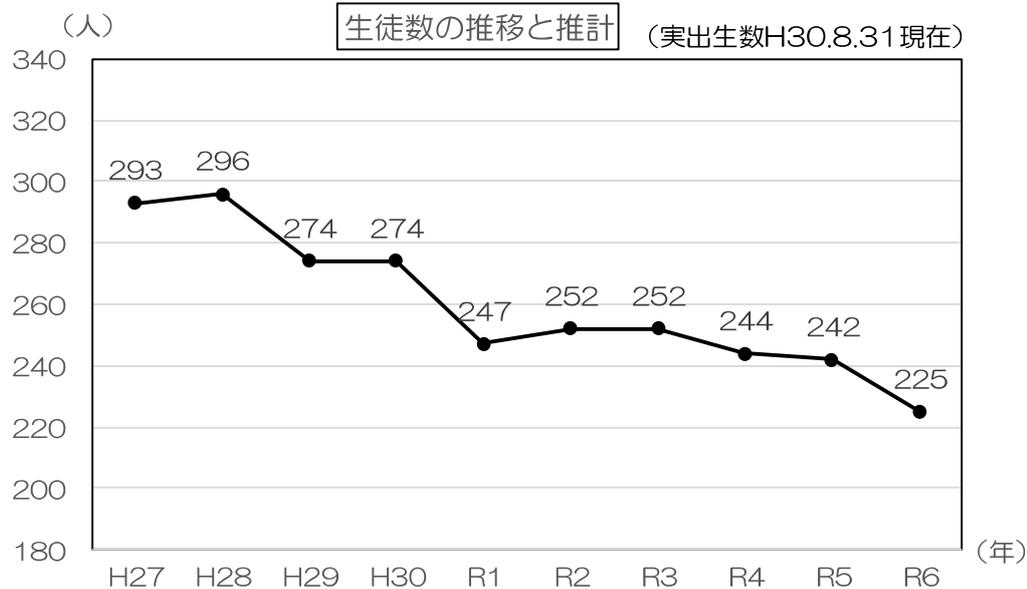


(2) 稲築中学校

平成30年度現在9学級で、今後も増加の見込みはなく、各学年3学級で推移する予測です。(30人以下学級で算出)

表 4-1-1-2 稲築中学校生徒数の推移と推計

平成25年度 ～ 平成30年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		生徒数		生徒数		生徒数		生徒数		生徒数		学級数	生徒数
稲築中	1年	/		/		88		106		79		3	90
	2年	/		/		103		89		105		3	78
	3年	/		/		102		101		90		4	106
	合計	304		309		293		296		274		—	274
	教職員数	35		34		34		35		31		—	32
令和元年度 ～ 令和6年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		学級数	生徒数										
稲築中	1年	3	79	3	83	3	90	3	71	3	81	3	73
	2年	3	90	3	79	3	83	3	90	3	71	3	81
	3年	3	78	3	90	3	79	3	83	3	90	3	71
	合計	—	247	—	252	—	252	—	244	—	242	—	225
	教職員数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



第4章 学校規模・平面計画

4-1-2 校舎面積

稲築中学校区の校舎面積の算定に当たっては、小学校及び中学校それぞれに標準学級数を参考に算定しますが、小中一体型の校舎における面積の算定方法としては、特別教室などを共有するため、30人以下学級における学級数を基準とし、中学校の算定基準表に準じて算定することとします。

表 4-1-2-1 稲築中学校区校舎面積計算表

校舎

普通教室は、稲築西小学校 18 学級、稲築中学校 9 学級とし、特別支援学級は 10 学級とします。

(1) 下表の算式により面積を計算します。

$$6,088 \text{ m}^2 + 217 (27 - 18) = 8,041 \text{ m}^2 \quad \text{①}$$

<学級数に応ずる校舎面積>

(単位：m²)

学級数	面積の計算方法
3 学級から 5 学級まで	2,150+344 (N-3)
6 学級から 11 学級まで	3,181+324 (N-6)
12 学級から 17 学級まで	5,129+160(N-12)
18 学級以上	6,088+217(N-18)

※N=学級数（特別支援学級を除く）

(2) 特別支援学級を設置する場合は、特別支援学級 1 学級につき 168 m²を加えた面積とします。

$$168 \text{ m}^2 \times 10 = 1,680 \text{ m}^2 \quad \text{②}$$

(3) 普通学級+特別支援学級

$$\text{①} + \text{②} = 9,721 \text{ m}^2 \quad \text{③}$$

(4) 多目的教室及び少人数指導教室（少人数授業に対応した多目的教室を含む。）を設ける学校の校舎面積は、学級数（特別支援学級を含む。）に応ずる校舎面積に 0.085 を乗じて得た面積とします。

$$\text{③} \times 0.085 = 826 \text{ m}^2 \quad \text{④}$$

(5) 校舎面積 $\text{③} + \text{④} = 10,547 \text{ m}^2$

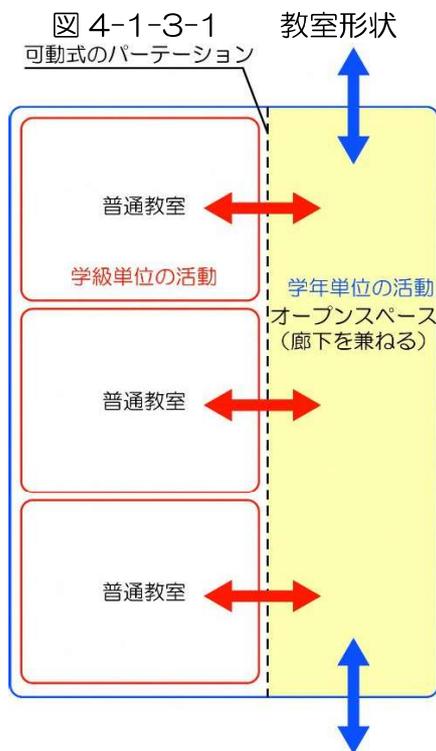
(6) 計画面積 約 10,500 m²

4-1-3 教室形状

小中一体型校における普通教室の形状は、「学年段階の区切りに対応した空間構成」とします。

<小学校>

- オープンスペース型とし、学年毎にユニットを構成します。
- 広い廊下がオープンスペースを兼ね、学年単位でのまとまりを重視します。
- 普通教室とオープンスペースの間には可動式のパーテーションを設置し、学級単位の活動に対応します。



<中学校>

- 生徒が主体的に学ぶことを重視して、大型モニターなどの情報機器を備えた教科教室を配置します。
- 落ち着いた学級活動が確実に実施出来るよう、普通教室同等のホームベース（HB）を配置し、教科教室を配置していない教科についてはHBで授業を実施します。
- 教室外にロッカースペースを配置することで、十分な収納スペースを確保し、生徒が授業に集中できる室内環境を目指します。

HB：ホームルームなどの学校生活を行う上で、拠点となる教室のこと。

第4章 学校規模・平面計画

4-1-4 諸室の設定

本計画に必要な主な諸室を以下のように設定します。

小中学校校舎

生活・学習ゾーン	小学校低学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校中学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	小学校高学年ゾーン ・普通教室 ・オープンスペース ・WC、手洗い	中学校ゾーン ・普通教室（HB） ・ロッカースペース ・WC、手洗い
	特別支援ゾーン ・特別支援学級 ・通級指導教室 ・WC、手洗い	少人数教室 ・少人数指導教室	多目的教室 ・多目的教室	共用部 ・昇降口 ・ホール
	給食 ・調理、休憩、配膳 ・食品庫DW	共用 ・エレベーター ・階段 ・廊下 ・備蓄倉庫		

教科学習ゾーン	特別教室 ・外国語活動室 ・理科教室 ・音楽教室 ・家庭教室 ・技術教室 ・美術教室 ・図画工作教室 ・教科教室 ・コンピュータ教室 ・多目的スペース ・図書室		
---------	--	--	--

校務ゾーン	校務センター ・職員室 ・休憩室 ・校長室 ・印刷室 ・倉庫 ・事務室 ・更衣室 ・放送室 ・会議室	付属 ・職員WC ・教材・教具室 ・地域活動・PTA室	保健・相談 ・保健室 ・相談室 ・進路指導室
-------	--	---	--

体育施設

体育ゾーン	体育館関連 ・体育館 ・ステージ ・WC ・更衣室 ・倉庫 ・器具庫
-------	---

学童保育所

武道場関連 ・武道場 兼サブアリーナ ・倉庫	学童保育所 ・職員室 ・WC ・教室
--	------------------------------------

4-1-5 諸室面積

本計画に必要となる主な諸室面積を以下のように設定します。

表 4-1-5-1 諸室一覧

	室名	室数	目安面積 (㎡/室)	備考
管理諸室	職員室	1	380	小中共同、給湯室、休憩室含む
	事務室	1	50	小中共同
	印刷室	1	40	小中共同
	校長室	2	30	金庫室含む
	会議室	2	40	可動間仕切り
	放送室	1	30	小中共同
	職員更衣室	2	25	男女別、休憩スペース含む
	保健室	2	60	トイレ・シャワー・洗濯室（共用）
	相談室	3	10	カウンセリング室兼
	職員トイレ	1式	40	多目的トイレ(オストメイト対応)
	教材・教具室	1式	-	小中別
	生徒会・児童会室	2	30	可動間仕切り
	進路指導室	1	30	可動間仕切り
	地域活動・PTA室	1	30	地域・保護者・学校が使用
	児童生徒用更衣室	1式	-	小中別(40名対応/室)
	備蓄倉庫	1式	-	
普通教室	小学校普通教室	18	64	学年ユニット形状、オープンスペース
	小学校少人数指導教室	3	30	普通教室の1/2
	中学校普通教室（HB）	9	64	
	中学校少人数指導教室	2	30	普通教室の1/2
	多目的教室	2	64	学年集会、特別教室等に対応
	中学校ロッカースペース	1式	-	
特別支援	通級指導教室	1式	180	教員室、教室(2)、運動室、トイレ、玄関
	特別支援学級	10	30	普通教室の1/2
特別教室	外国語活動室	1	64	小学校用
	理科教室	3	90	
	音楽教室	2	100	音楽室(大・中)、準備室
	家庭教室	1	180	家庭科室、調理室、被服室集約、準備室
	技術教室	1	120	
	美術教室	1	100	工作ゾーンとしてユニットを構成、可動間仕切り、準備室
	図画工作教室	1	70	
	教科教室	2	64	教科教室として配置
	コンピュータ教室	2	90	
	図書室	1	300	畳コーナー、書庫
多目的スペース	1	180	2～3学年程度対応、保護者会	
給食	給食室	1式	400	調理室、休憩室、食品庫、配膳室
運動施設	体育館(改修)	1式		稲築中学校体育館を改修、
	武道場兼サブアリーナ	1式		武道場兼サブアリーナを新設

第4章 学校規模・平面計画

4-1-6 諸室計画

諸室計画は、教育の内容に応じた活動を展開できるよう、必要な機能を満たしながら柔軟に計画します。

(1) 教室

①小学校普通教室

- ・教育活動が円滑に展開できるよう計画します。
- ・教室内に適切な収納スペースを計画します。
- ・学年ユニット形状とし、ユニット内は普通教室とオープンスペースで計画します。
- ・オープンスペースには、洗面台や教材スペース等の学年活動に対応する機能を持たせるよう計画します。

②中学校普通教室（HB）

- ・教育活動が円滑に展開できるよう計画します。
- ・教室外に生徒用ロッカースペースを計画します。

③教科教室

- ・大型モニターなどの情報機器を設置し、多様な教育活動が展開できるよう計画します。

④特別支援学級

- ・可動間仕切りを設けるなど、多様な活動ができるよう計画します。
- ・小学校教室については、運動スペース、クールダウン用スペース（小部屋等）、トイレ及びシャワー室を計画します。

⑤通級指導教室

- ・校外通級者に配慮し、送迎に配慮した計画とします。
- ・運動スペース、クールダウン用スペース（小部屋等）、トイレ及びシャワーを計画します。

⑥少人数指導教室

- ・少人数学習（習熟度別学習等）に使用できるよう計画します。
- ・学年ユニットに近接配置できるよう計画します。

⑦多目的教室

- ・異学年交流や地域交流等に使用できる教室として計画します。
- ・可動間仕切りを設けるなど、多様な教室形態により利用できるよう計画します。

(2) 特別教室

①外国語活動室

- ・主に小学校の外国語活動及び外国語の授業で使用する教室として計画します。

②理科教室

- ・実験や観察等、理科の授業を行う専門的な教室として計画します。
- ・臭気の出る実験などを想定し、換気に配慮した計画とします。
- ・実験備品を日常的に見られるようにするなど、興味を喚起する収納を計画します。
- ・準備室は小中学校それぞれのスペースを確保した計画とします。

③音楽教室

- ・音響及び防音に配慮した教室として計画します。
- ・準備室は、授業及び部活動を想定し十分な楽器収納量を確保した計画とします。

④家庭教室

- ・調理室と被服室を集約し、教室内でゾーン分けした教室として計画します。

⑤技術教室、美術教室、図画工作教室（創作ゾーン）

- ・創作ゾーンとして、3教室を連続的に配置し、多様な活動に対応できるよう計画します。
- ・製作作業に配慮し、汚れにくく清掃しやすい床仕上げとして計画します。
- ・臭気や粉塵の出る作業を想定し、換気に配慮した計画とします。
- ・製作した作品の展示に配慮したスペースを計画します。

⑥コンピュータ教室

- ・常設型のコンピュータ教室と可動型のコンピュータ教室として計画します。
- ・常設型の教室については、主にコンピュータの操作性の学習に対応した教室として計画します。
- ・可動型の教室については、グループ活動などによる学習に対応した教室として計画します。
- ・特に可動型の教室については、図書室との相互利用にも配慮した計画とします。

⑦図書室

- ・児童生徒に対して十分な広さの空間を確保できるよう計画します。
- ・多様な教育活動などにおいて、効果的に活用することができるよう計画します。

⑧多目的スペース

- ・異学年交流や地域交流等に使用できる空間として計画します。
- ・可動間仕切りの設置や多目的教室との近接など、多様な形態により利用できるよう計画します。

(3) 管理諸室

①校長室

- ・小中学校それぞれに整備し、職員室と近接するよう計画します。

②職員室

- ・小中学校で共有とします。
- ・学校敷地内を見渡せるなどの防犯対策や緊急対応がしやすい配置と動線を計画します。
- ・打合せスペース、教材収納スペースを備え、給湯室、休憩室、放送室及び印刷室を近接するよう計画します。

③事務室

- ・小中学校で共有とします。
- ・職員室や印刷室と近接するよう計画します。
- ・来校者の管理ができるよう計画します。

④保健室

- ・小中学校それぞれ 1 室を隣接させ、可動間仕切りなどにより多様な形態での使用ができるよう計画します。
- ・緊急時の対応がスムーズに行えるような配置と動線を計画します。
- ・相談室などを隣接し、児童生徒の相談対応に配慮した計画とします。

⑤相談室

- ・相談者のプライバシーに配慮するなど、落ち着いた雰囲気計画します。

⑥進路指導室

- ・中学校の進路指導に対応する室として計画します。

⑦会議室

- ・学年会議、各種委員会、研修会等に対応できるよう計画します。
- ・可動間仕切りにより広さを変更できる計画とします。

⑧地域活動・PTA 室

- ・PTA 活動や学校を支援する活動を行う人たちが使用する室として計画します。

⑨生徒会・児童会室

- ・小中学校それぞれ 1 室を計画します。

⑩その他

- ・学校運営上必要な諸室を計画します。
- ・教職員更衣室、児童生徒更衣室、教材・教具室、倉庫、備蓄倉庫、トイレ、昇降口等を計画します。

(4) 給食関連諸室

①給食室

- ・小中学校あわせて 1,000 食対応可能な給食設備を計画します。
- ・災害時対応を想定し、調理器具については電気とガスを併用した計画とします。

②配膳室

- ・コンテナ及び運搬用ワゴンを置いて十分作業できるスペースを確保し、壁面衝突防止の工夫をする計画とします。
- ・エレベーターの設置を計画します。
- ・給食搬入ヤードについては、十分な大きさの屋根を計画します。

(5) 体育館及び武道場

- ・既存中学校体育館については、改修を実施します。
- ・武道場兼サブアリーナを計画します。

(6) グラウンド

- ・メイングラウンドとサブグラウンドを計画します。
- ・メイングラウンドは 200mトラックが収まる広さとして計画します。

4-2 配置ゾーニング

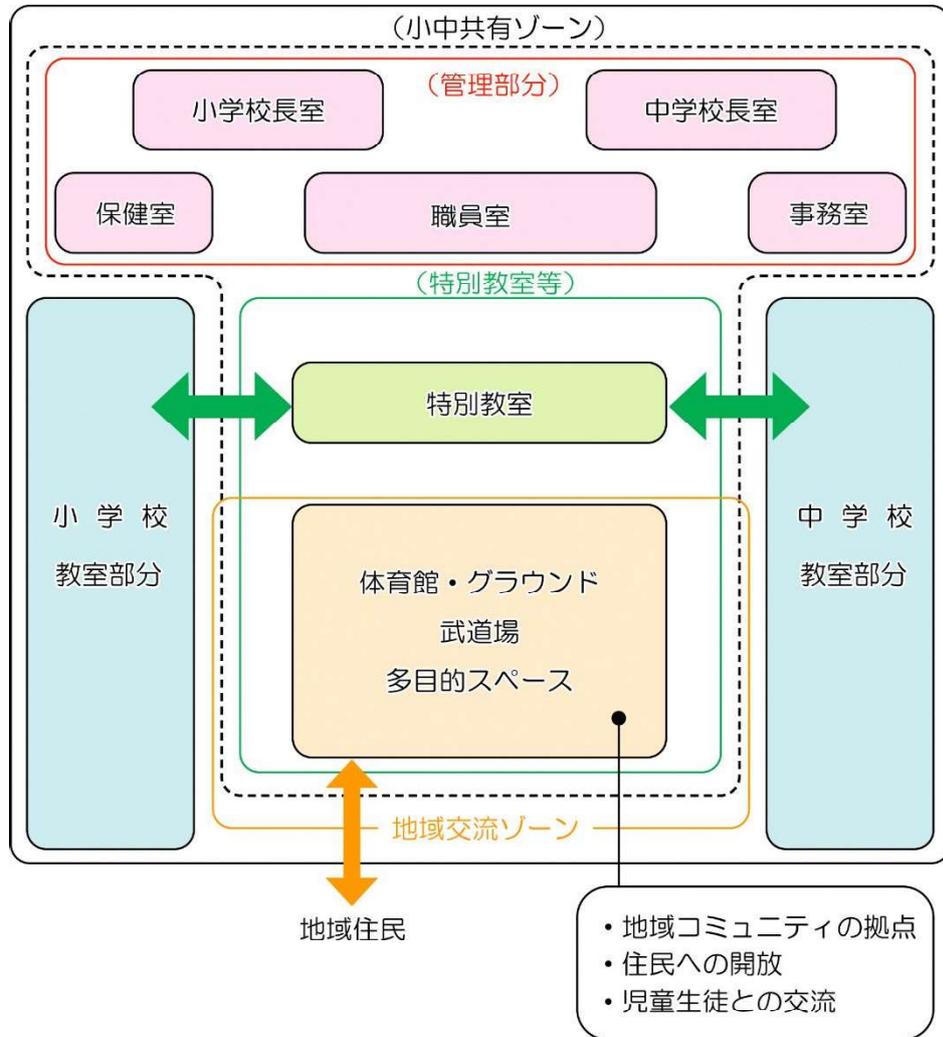
4-2-1 配置ゾーニングの考え方

- (1) 車両と歩行者を明確に分離します。
- (2) 諸室
 - ・管理諸室は全体が見渡せる配置とします。
 - ・小学校低学年は、専用庭で植物観察ができる配置とします。
 - ・小学校中高学年は、中学生を意識できる配置とします。
 - ・中学校は小学校との単位時間の違いなどの運用面、管理面に配慮した区分とします。
 - ・特別支援学級は、交流学級と連携のしやすい配置とします。
- (3) 学校管理ゾーンと地域交流ゾーンを明確に分離します。
- (4) 小中学校の交流、連携の拠点となる異学年交流スペースを配置します。
- (5) 特別教室、管理諸室を小中学校で共有化し、施設全体をコンパクトに集約します。
- (6) 稲築中学校区の地域コミュニティの拠点として地域住民が親しみ、集いやすい配置とします。

地域交流ゾーン：地域コミュニティの拠点として、児童生徒と地域住民が交流を図れるゾーンのこと。

4-2-2 校舎構成のイメージ図

図 4-2-2-1 校舎構成のイメージ図



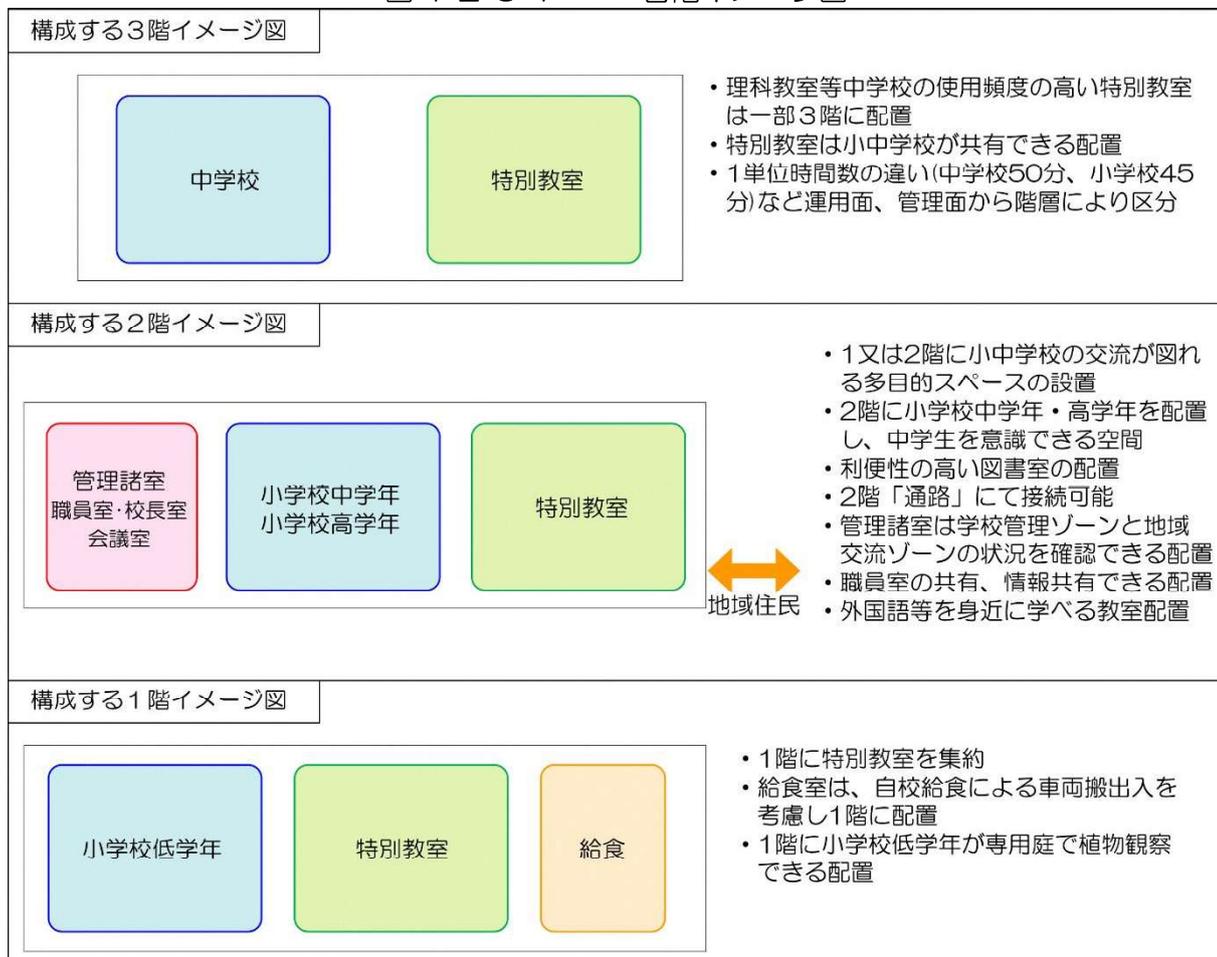
第4章 学校規模・平面計画

4-2-3 稲築中学校区の各階イメージ図

〈各階ゾーニングの考え方〉

- (1) 小中学校が独自性を保ちつつ、学校と地域が連携しやすい構成とします。
- (2) 小中学校の交流、連携のための「多目的スペース」を小中一体型校舎の中心に配置し、特色のある教育活動を推進します。
- (3) 小中一体型校への移行により、学校間の交流、連携をしやすいようにするため、施設全体をコンパクトに集約します。
- (4) 稲築西小学校のグラウンド広さの制約や小中学校の単位時間の違いなどの運用面・管理面から、階層により区分します。

図 4-2-3-1 各階イメージ図



4-3 平面計画の検討

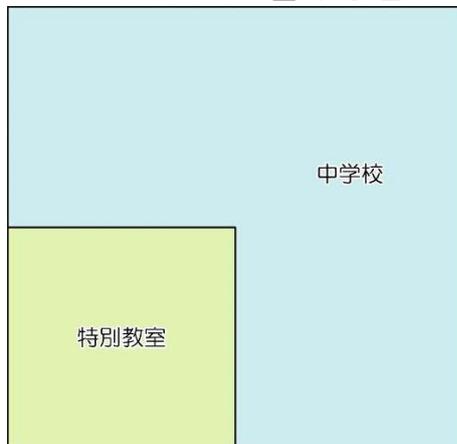
図 4-3-1 平面計画（案）



第4章 学校規模・平面計画

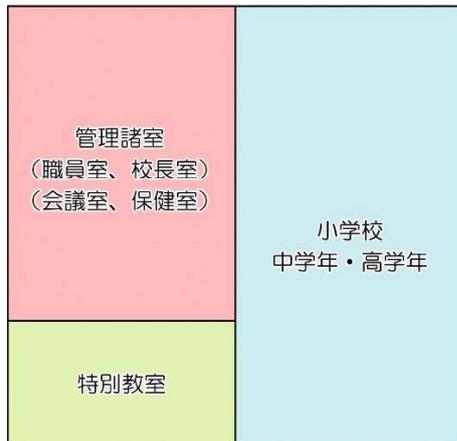
図 4-3-2

各階平面計画（案）



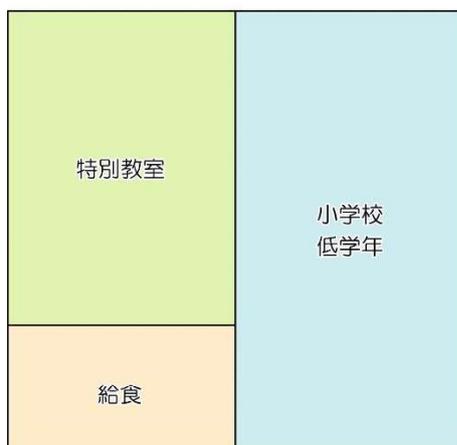
3階

- 中学校ゾーンを集約
- 理科教室等中学校の使用頻度の高い特別教室を配置



2階

- 小中学校の交流が図れる多目的スペースの設置
- 小学校中学年・高学年を配置し、中学生を意識できる空間
- 利便性の高い図書室、PC、地域活動・PTA室の配置
- 管理諸室は学校管理ゾーンと地域交流ゾーンの状況を確認できる配置
- 職員室の共有、情報共有できる配置
- 外国語等を身近に学べる教室配置
- 「通路」にて接続可能



1階

- 特別教室を集約
- 自校給食による車両搬出入を考慮し給食室を配置
- 小学校低学年が専用庭で植物観察できる配置
- 通級指導教室は、落ち着いた環境に配置
- 特別支援学級は、小学校と中学校を分離配置
- 「中庭」にて視認性の高い配置

平面計画の詳細については、今後の設計段階において決定していきます。

4-4 学童保育所の検討

4-4-1 必要面積の検討

稲築西小学校学童保育所の必要面積を、平成 30 年度における最大在籍数に基づき下表のとおりとします。

表 4-4-1-1 学童保育所計画面積表

児童数	職員数	クラス数	面積 (㎡)			
			教室	職員室	トイレ	その他
178	12	5	330	36	56	20

- 面積算出根拠は「児童福祉法」及び「嘉麻市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」によります。
- クラス数は 1 クラス「おおむね 40 人以下」の規定に基づき算出しています。
- 教室面積は一人あたり 1.65 ㎡という必要面積の規定に基づき算出しています。
- その他の面積は、嘉穂学童保育所の面積を引用しています。
(上記面積には共有部を含んでいません。)

4-4-2 配置計画

敷地の条件、施設の現状を踏まえ、小中一体型校との連携が図りやすく、必要な建物規模を確保できる建物配置とします。

また、学校と共有できる施設は共有します。

第4章 学校規模・平面計画

4-5 図書室の検討

4-5-1 図書室の検討

稲築西小学校、稲築中学校の現在の図書室蔵書冊数を示します。

表 4-5-1-1 蔵書冊数

名称	蔵書冊数
稲築西小学校	22,580 冊
稲築中学校	12,657 冊
合計	35,237 冊

「学校図書館図書標準」(文部科学省)により、標準必要冊数を示します。

(30人以下学級で算出)

表 4-5-1-2 標準必要冊数

名称	標準必要冊数
稲築西小学校	$7,960 + 400 \times (18 \text{ 学級} - 12) = 10,360$ 冊
稲築中学校	$7,360 + 560 \times (9 \text{ 学級} - 6) = 9,040$ 冊
合計	19,400 冊

稲築中学校区小中一体型校学校図書室に整備すべき標準必要冊数は、19,400冊です。
標準必要冊数を置けるスペース及び学習スペースを確保します。